

シン働き方改革②オフィス・ダイエット

企業経営漫談士 岡野実空

「経費・時間・ストレスの仕事コスト・ダイエット」は沖電気の複合機の広告コピーですが、今回のコラムは、「シン働き方改革」の第2弾「オフィス・ダイエット」による生産性向上。とはいえ、その「オフィス」は事務所ではなく、Microsoft の“Office”。その中から、Word、Excel、Power Point の 3 つを取り上げ、その利便性ゆえの反作用を考えます。

オフィス・ダイエット1: ワード

「書類文化」の弊害は、前回取り上げたばかり。要は、それを分量で評価することが諸悪の根源。しかし規制に守られたお役所並み企業ばかりでなく、一般企業でも決して他人事ではありません。

かつてクライアントだった某商社の役員から、東南アジア出張の折、往きの機中で読むための資料を部長に依頼したところ、100ページ近くの報告者が届き、腰を抜かしたという話を聞きました。帰国して調査したところ、簡潔な原案を作った社員は、まず薄いと課長に怒られ、分厚く改定された資料を了承した課長は、同じ理由で部長にやり直しを命じられ、その過程で原案が10倍の分量になったとか。しかも彼に渡った最終版は、課長が課員を、部長は課長をそれぞれ誉め、慰労までしていたと苦笑い。しかし彼は、目的と内容項目、さらには分量を言わなかった自分の指示ミスと語り、即座に再発防止策を講じたとのこと。見事な事後処理には、その後、彼が副社長まで昇進したのも納得です。

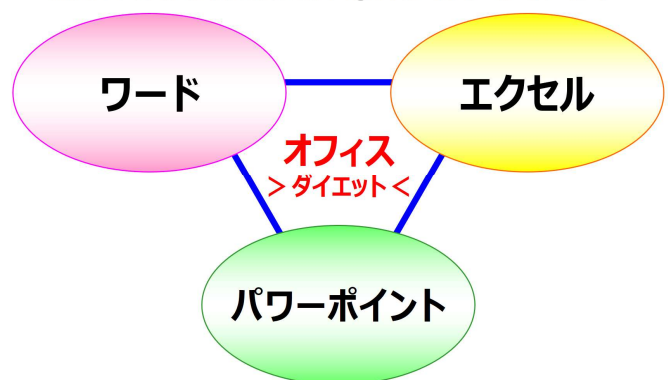
いずれにせよ、頻発するこの類の曖昧な依頼には、必ず「目的」と主な「内容」、その「項目」に加え、「分量」の「確認」が必須です。

オフィス・ダイエット2: エクセル

2013年、日本マイクロソフトの品川本社で行われた「エクセル」新版の説明会に出席して、二つの衝撃を受けました。一つは、その仕様があまりにも進歩していること！それ、パワポの機能では？もう一つは、あまりの万能さに、MCNメンバーで最もITに精通している松波道廣氏までもが驚いている姿！！それは、思わず「オフィスのナポレオン」と手帳に記したほどでした。

しかし、「不可能」という言葉を嫌ったナポレオン同様、何から何まで自分が統御する「欠点」は明らか。すでにこのコラム(0-7)でも取り上げた、マイクロソフトが泣いて喜ぶ「エクセル経営」は、個々の既存システムを巧みに接合するため、より上位のシステムで全体の生産性を飛躍的に高めるという発想にはならないからです。(目下、絶好調のワークマンを除く)

KM1-24 シン働き方改革②オフィス・ダイエット



オフィス・ダイエット3: パワーポイント

「エクセル経営」並に、生産性を下げる可能性が高い「パワポ経営」。かつてのサラリーマン川柳に、「ダメ企画すんなり通るワープロで」という名狂句がありましたが、いまなら差し詰め「パワーポイントで」の多字余り。パワポ達人の増殖に伴い、中身の貧弱さを、見かけで補おうとする傾向は、各企業でますますひどくなるばかりです。

また多角化企業では、特性が一致する範囲ばかりでなく、毛色の違う事業でも、すぐにその違いの議論に入れるよう、企画や管理の書式統一を急がねばなりません。そのことが組織を越えた議論を可能にし、全社的な交流の前提条件ともなります。

その意味で、書類様式考察の時間とエネルギーを、「内容」の差異を考えることに振り向けることこそ、知的生産性を高める第一歩となります。

ナポレオンの分析から、「戦略」「組織」の研究は始まりました。彼の最大の欠点は、「内省」嫌いといわれます。いま私たちは、「オフィス」のナポレオンと副官たちを見直し、真の生産性向上を考えねばなりません。「愚者は自分の経験に学び、賢者は他人の経験にも学ぶ」(鉄血宰相ビスマルク)

2019年7月28日(初出平成30年1月15日) 実空